

# ベルギーテロ 専門家に聞く

ベルギー同時テロの背景にあるものは何か。中東や欧州政治、危機管理の専門家に聞いた。

ISは、拠点として  
いるイラクやシリアだけで  
なく、遠く離れたパリや  
ブリュッセルも「戦場」  
ととらえている。いま起



やまうち・まさゆ  
き 1947年北海道  
生まれ。東大名誉  
教授。近著に「中  
東複合危機から第  
三次世界大戦へ」  
(PHP研究所)。

## 中東との複合危機か

明治大学特任教授  
(中東イスラム地域研究) 山内昌之氏

明  
治  
大  
学  
特  
任  
教  
授  
(中東イスラム地域研究) 山内昌之氏

中東では、ロシアやトルコまで巻き込んだ複合的な危機がシリアを中心に進行中だ。昨年1月の「シャルリーエブド」襲撃事件と11月のパリ同時多発テロ、今回のブリュ

ッセルでの同時テロ。これらは、中東での危機が、欧州に流入する難民やテロ拡散の問題を通じて「中東・欧州複合危機」に発展するという非常に嫌な予兆だといえる。

英仏による20世紀の帝国主義的な中東分割や、ブッシュ米政権下でのイラク戦争が中東の人々にとって不愉快だったことは否めない。だから当初はイスラム世界にISに

共鳴する人々がいたかもしれない。だが、大多数のイスラム教徒は既に、ISの本質はテロにあり正義などないと理解している。西側諸国とイスラム世界との対立の構図で説明するのは間違いだ。

欧州における中東出身者の貧困や社会的差別にテロの原因を求める意見もある。しかし、すべての中東出身者がテロに走るわけではない。「対話で解決できる」という言葉は美しいが説得力はない。

どうやったら女性や子供がいる場所であっても犯行をためらわないテロリストに変わりえるのか。そうした若者たちの中に「怒り」が生まれる背景と肉的心理について、私たちは確定的な答えを持っていない。

反社会的な行動に走る人だとしても、テロリストに変容する回路をまだ解明できていない。その点に欧州のテロ問題の深刻さがあると言っべきだろう。【聞き手・隅俊之】